

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (四国)	良くなる	通信会社（営業担当）	・新商品発売に伴い、年末商戦にかけて販売量が増加すると想定している。
	やや良くなる	一般小売店〔文具店〕（経営者）	・プレミアム付商品券の効果か、客の買上点数が若干増えているようだ。
		衣料品専門店（経営者）	・今はどん底の状態にあるが、年末に向けて気温が下がると、冬物衣料の需要が増え、全体的に少しは良くなるのではないかと。
		乗用車販売店（従業員）	・年内にモデルチェンジを予定している車種があり、新車受注の増加に期待している。
		乗用車販売店（役員）	・8月に新車を投入したものの、思っていたより伸びず、受注も前年と同程度である。10月以降にも新車投入等があるので、受注は増えてくるのではないかと。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・現在は秋祭りの買い出しで、かなり忙しい。2～3か月先は、少しずつ上向いていくだろう。
		タクシー運転手	・年末に向け、忘年会等が増えることから、やや良くなると判断している。
		タクシー運転手	・12月初め頃まではお遍路の仕事がある程度入っている。また、忘年会シーズンになれば夜も動くだろうから、今より少しは売上が上向くだろう。
		通信会社（営業担当）	・話題の新機種の販売開始から、冬のボーナス商戦へと全体的に買換え需要が高まると予想している。
		観光遊園地（職員）	・昨年度と比べ、客数が増えている。
		ゴルフ場（従業員）	・2～3か月後の予約状況は概ね順調に推移している。ただし、売上は単価が下落しており、少し厳しい面もある。
		美容室（経営者）	・新しい企画などを提案し、良くしていきたい。
		設計事務所（所長）	・人手不足は相変わらずであるが、建築の物件は増えてくるだろう。
		住宅販売会社（従業員）	・今月は来場者数が多かったことから、受注増が見込まれる。
	変わらない	商店街（代表者）	・新規の商業施設の集客力の高さは当面続く。秋の行楽シーズンで、観光客もかなり商店街に入ってくることが見込まれ、秋物や冬物の立ち上がりにはかなり期待が持てる。このまま良い状態で推移すると見込まれる。
		商店街（事務局長）	・金融不安からくる株価の乱高下は想定以上に長期化しており、政府の思い切った政策や働きかけなしでは経済の安定は難しいと思われる。その先の成長や消費拡大を期待するが、道のりは険しいと言わざるを得ない。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・年末贈答用品の予約は年々減っており、来店当日に購入する客が増えている。売上高は、その時の情勢や天気が大きく変わるので予想が難しい。
		百貨店（営業担当）	・来客数は増えてきているが、客は買いたい物だけを買うという傾向にある。
		百貨店（販売促進担当）	・主軸の衣料品の売上が改善傾向も不十分である。また、株価の動きも不安定で楽観視できない。
		スーパー（店長）	・特段、変わったことはなく、前年並みに推移する見込みである。
スーパー（財務担当）		・単価上昇分により売上高は増えて推移しているが、販売数量、来客数は消費者の節約志向が続いているため、増えていない。	
コンビニ（店長）		・良くなる要素がない。	
コンビニ（総務）		・天候や気温に左右されるが、状況が変わらなければ景気が良くなるとは思えない。	
コンビニ（商品担当）		・同僚や他業種から景気の良くなる話を聞かない。試行錯誤を繰り返しているが、すぐに効果が出るとは思えない。	
衣料品専門店（経営者）		・シルバーウィーク以降、非常に動きが緩慢である。現状が続くと厳しい。	
衣料品専門店（総務担当）		・プレミアム付商品券の効果は前年比プラスとまではいかないが、下支えはしているのではないかと。効果が薄れていくにつれ、反動が出るのではと懸念している。	
家電量販店（店員）		・起爆剤となる新製品の発売予定もなく、ボーナス商戦も期待できない。	
乗用車販売店（従業員）		・年末に新車投入があるので、販売増を期待しているが、それ以外に目新しいニュースはなく、あまり変わらない状況が続くだろう。	
乗用車販売店（従業員）		・商品力に助けられているだけで、景気が良くなっているとは感じない。	
乗用車販売店（営業担当）		・9月の来店客数を見る限り、急激に回復する兆しは見えない。	

	住関連専門店（経営者）	・最近、食料品を中心に値上がりしているほか、中小企業の賃金は上昇していないようだ。アベノミクスの成果はまだ見えておらず、今後は難しいのではないか。	
	観光型旅館（経営者）	・3か月先までの予約件数は、前年並みである。	
	都市型ホテル（経営者）	・予約状況はあまり良くない。地域振興策の旅行券や商品券の発行により、何とか下支えしてくれるだろう。	
	旅行代理店（支店長）	・国内旅行需要は堅調である一方、テロ等海外情勢への不安からか、ヨーロッパを始めロング方面の海外旅行需要は回復の兆しが見えていない。	
	通信会社（企画）	・特に良くなる要素もなく、変わらない。	
	美容室（経営者）	・景気改善の兆しが見えてこない。	
やや悪くなる	商店街（代表者）	・次から次に社会問題が起きており、どこかの時点で市場の暴落を迎える可能性がある。日本郵政グループ3社の上場がどこまで市場を支えるかが重大なポイントになる。	
	衣料品専門店（経営者）	・野菜の高騰など物価が多岐にわたって上昇しているのに、賃金がそれに伴っていない。	
	その他小売〔ショッピングセンター〕（副支配人）	・景気が良くなる要素がない中、株式市況の乱高下を見てみると、消費意欲は高まらない。	
	一般レストラン（スタッフ）	・秋から冬にかけて悪くなる。	
	通信会社（支店長）	・中国の景気悪化やドイツの自動車メーカーの不正による影響等から、外部環境が悪くなる状況を鑑みると、やや悪くなると考えている。	
	競艇場（職員）	・12月には年末の大きなレースが開催され、例年売上は増加しているが、昨年12月は前年比7%減となっており、前年対比での増減が鍵を握っている。売上増加のためには、人気選手・地元選手の活躍が鍵を握っている。ただ、現状ではあまり期待できない。	
悪くなる	一般小売店〔酒〕（販売担当）	・購買意欲の湧く景気の良い要素が無い限り、消費は低迷したままであろう。	
	コンビニ（店長）	・依然、来客数減少と客単価下落に歯止めがかからない。	
企業動向関連 (四国)	良くなる	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・当社にとっては、これからが一番動く時期なので、売上・利益共に増加していきだろう。
	やや良くなる	食料品製造業（商品統括）	・ドイツの自動車メーカーによる不正など、不信感が世界的にまん延している。ただ、安倍首相が発言したGDPへの取り組みにも見えるように、各国首脳も行動を起こすと思われること、日本では技術力を維持できる国内回帰の流れが継続していることから、景気の先行きは、やや良くなるだろう。
		木材木製品製造業	・消費税増税による駆け込み需要に期待をしており、間違いなくもう一山あるとらんでいる。しかし、中国人民元切り下げ以降の円相場や株価下落が消費に水を差すことが懸念材料である。
		電気機械器具製造業（経営者）	・地方創生の影響で、地方に分散型の小型エネルギー基地を作る構想を打ち出しており、国内外から問い合わせがある。将来的に仕事につながっていくはずで、景気はやや良くなると判断した。
		広告代理店（経営者）	・販促等を受注している県外大手娯楽施設及び私鉄駅ビルがオープン予定であり、近隣商業施設を含め、少し上向くと期待している。
	変わらない	繊維工業（経営者）	・市場環境が目まぐるしく変化しており、取引先の小売店の中には、ここ2～3年状況が悪化しているところが多い。そのような中、変化に対応しながら、自ら研究を継続したり、若い後継者へのパトナタッチを進めている先は好調である。また、消費動向にあわせた新業態の小売店も出来ており、市場の中身が大きく変わってきていることを感じる。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・海外に不透明感があるが、国内が堅調に推移しており、全体としては大きな変化はないと思われる。
		建設会社（経理担当）	・受注量は増えたが、次年度繰越分である。景気は変わらないだろう。
		建設業（経営者）	・公共事業に頼らざるを得ない。
		輸送業（経営者）	・現状のまま推移していきだろう。
		輸送業（営業）	・取扱物量は発送・到着貨物共に低調に推移しており、特に、発送貨物においては減少が著しい。シルバーウィークの消費反動により消費者の購買意欲が低下する中、この先の景気は極めて不透明な状況にある。
		通信業（総務担当）	・特に良くなる要因も悪くなる要因も見当たらない。
		通信業（部長）	・国内外の株式市場の動向に左右される企業も多く、中長期的に安定感が見えるまでは、投資においては今と同様に消極的になると考える。

	金融業（副支店長）	・企業業績は良くなっており、給与面は上昇していると思われるが、まだ浸透していないのではないかと。	
	公認会計士	・関与先企業の社長によると、マイナンバー制度、消費税増税等の将来の事象に対し不安を強く持っている。それらに備えるため、設備投資には前向きでないようだ。	
やや悪くなる	食料品製造業（経営者） 鉄鋼業（総務部長） 建設業（経営者）	・水産原料の相場高騰により製品価格が上昇し、販売数量の減少が懸念される。 ・受注及び見積り依頼の状況から見れば、先行きはやや悪い。 ・発注量全体では前年度に比べ減少傾向にあるため、補正予算がないと受注量が減少し、売上も減少する。景気はやや悪くなる。	
悪くなる	-	-	
雇用 関連	良くなる	-	
(四国)	やや良くなる	職業安定所	・有効求人倍率は8月が1.17倍となり、前月比0.02ポイント、前年同月比0.15ポイント、それぞれ上昇した。
		民間職業紹介機関（所長）	・9月以降も、求人数が例年より2割増えている。何とか新卒採用をしたいという企業の意気込みが感じられる。
	変わらない	人材派遣会社（営業担当）	・半期決算による小売業の販売上昇と株価低迷による企業への投資意欲の減退が相殺され、景気はあまり変化ないと見る。
		求人情報誌制作会社（従業員）	・例年、年末に向けてアルバイトの募集は増えるが、正社員の募集は減少する。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・依然、消費税増税の影響が残っており、来年の消費税引上げへの警戒心もあることから、消費志向の基本は守りだろう。マイナンバー制度の導入により、生活費補てんのアルバイト収入への課税の恐れ、富裕層も資産を正確に把握され、実質増税になるのではないかと恐れがあり、守りが継続されるのではないかと。また、周辺では新規開店などの案件はまだ少ない。
		職業安定所（職員）	・非正規雇用での求人が多いうえ、正社員募集とした求人も時給であるなど、非正規と大差のない募集が目立つ。
		職業安定所（職員）	・新規求人数は増加傾向が続いている。一方、新規求職者数は減少傾向が続くと予想されるが、先行きは不透明である。
	やや悪くなる	人材派遣会社（営業担当） 求人情報誌（営業）	・労働者派遣法改正で人事担当者が様子見であり、先行きの景気に影響する可能性がある。 ・求人は増え続けているが、求職活動をしている実質の求職者数が少なく、人手不足が深刻な状態である。正社員は勿論、パート・アルバイト不足による各企業の操業・営業状態では、残業等による対応か、受注量減等での対応を余儀なくされるため、景気はやや悪くなることが予想される。
悪くなる	-	-	